

# 平成 17 年度試験研究成果書

| 区分   | 指 導  | 題名   | 黒毛和種の県有種雄牛における子牛市場成績 |              |  |
|--|------|------|----------------------|--------------|--|
| [ 要約 ]   |      |      |                      |              |  |
| 県内の黒毛和種子牛市場成績によると、平成 16 年 12 月～平成 17 年 11 月の 12 ヶ月間の取引成立頭数は約 2 万 4 千頭であり、県が所有する種雄牛産子はその 16% である。 |      |      |                      |              |  |
| 県有種雄牛の「菊安舞鶴」「菊茂勝」で県平均よりも上場時日齢が早く、体重が重く、販売価格が高い傾向があった。  |      |      |                      |              |  |
| キーワード  | 黒毛和種 | 子牛市場 | 種雄牛                  | 畜産研究所種山畜産研究室 |  |

## 1 背景とねらい

種雄牛の能力を正確に把握することは、交配種雄牛の選定にあたっては極めて重要なことである。このため、地域による黒毛和種の子牛市場成績を分析し、県有種雄牛の評価を明らかにした。

## 2 成果の内容

### (1) 子牛市場成績 (表 1、2)

ア 取引された 23,616 頭のうち県有種雄牛は 3,780 頭 (16.0%) (前年 11.5%) であり、「糸安菊」「菊安舞鶴」「安福菊」「第 5 夏藤」が多く取引された。

イ 県有種雄牛の割合が一番高い地域は、水沢地域 (27.2%) であった。

ウ 市場上場時日齢・体重は県平均と同等であったが、価格は県平均より 23,000 円 (前年 38,000 円) 安かった。

### (2) 子牛市場成績に対する種雄牛、地域および市場月の効果 (表 3)

ア「菊安舞鶴」「菊茂勝」が県平均よりも上場時日齢が早く (6、10 日) 体重が重く (2、6kg) 価格が高くなる (65,160、54,872 円) 傾向がみられた。

イ 水沢および一関地域で体重が重く、価格が高くなる傾向があり、花巻地域では日齢体重について +0.04 と高い効果がみられた。

ウ 市場月については、4 月と 11 月とで最大 49,800 円の効果差がみられた。

### (3) 子牛市場成績に対する産次の効果 (表 4)

ア 日齢については、3 産～6 産目が早くなる傾向が見られた。

イ 販売価格については、6 産目以上でマイナスへと転じた。

## 3 成果活用上の留意事項

(1) 調査データは、和牛子牛市場成績より、平成 16 年 12 月から平成 17 年 11 月までに市場取引成立した子牛の成績を用いた。なお、価格は消費税抜きの金額である。

(2) 子牛市場成績の分析は LSMLMW による最小二乗法を用いた。表 3 については、母数効果を種雄牛、性別、地域および市場月とした。表 4 については、母数効果を種雄牛、性別、地域、市場月および産次とした。産次については、11 産次以上のものは分析に用いなかった。1 種雄牛あたり販売成立子牛 20 頭以上のものを分析に用いた。

(3) 本分析結果はあくまでも子牛市場成績のみのものであるため、交配にあたっては母方系統の他、母牛の育種価評価や現場肥育成績などを総合的に考慮し、判断する必要がある。

## 4 成果の活用方法等

(1) 適用地帯又は対象者等 県下全域 (黒毛和種飼養農家)

(2) 期待する活用効果 地域指導の基礎資料として活用

## 5 当該事項に係る試験研究課題

(857) 県有種有牛の利用および能力調査 [H14～H22]

## 6 参考資料・文献

